

## 真っ青な空と地中海に囲まれた学校 ～スペイン・バルセロナ日本人学校～

前 バルセロナ日本人学校

現 旭川市立聖園中学校 教諭 伊藤文江

### 1, はじめに

平成16年度から平成18年度までの3年間、在外教育施設派遣教員として、バルセロナ日本人学校に勤務致しました。派遣期間中、たくさんの方々を支えられながら多くのことを体験し、また、学ぶことができました。

ここに、スペインの様子、バルセロナ日本人学校での取組について紹介致します。

### 2, スペイン(エスパーニャ)の様子

#### 1) 国土と気候



スペインは、ヨーロッパの南西端にあるイベリア半島の約5分の4を占め、北はフランス及びアンドラ、西はポルトガルと国境を接しています。北西と南西部は大西洋、南と東は地中海に面し、首都をマドリッドに置いています。

幅約15km足らずのジブラルタル海峡を挟んでモロッコと接しているため、古くより南北から人や物が流れ込み、多彩な民族や文化の影響を受けてきました。

北緯43度、日本と比較すると札幌付近から東京付近に相当します。面積は約50.6万平方km(日本の約1.3倍)で、ヨーロッパ全土の約20分の1に相当します。

#### スペイン国旗



- ・ 議会君主制  
(元首ファン・カルロス1世)
- ・ 17自治州(50県)
- ・ 通貨 ユーロ
- ・ カトリック教徒が圧倒的に多い
- ・ 日本との時差 8時間  
(サマータイム導入のため4～7月は時差7時間)

スペイン全体の面積の約13%が平原と牧草地、約32%が森林で占められています。

気候は、地域により大きく異なります。

内陸部は、夏は暑く冬は寒い、大陸性気候です。中央部には「メセタ」と呼ばれる標高約600mの大地が広がっています。

北部は、夏は涼しく、冬は温暖な海洋性気候で、湿度は高く雨量が多いため、緑豊かです。山岳地帯では冬になると雪が積もります。

東部は、地中海性気候で、冬でも温暖です。バルセロナのあるカタルーニャ地方は比較的雨がはいけれども、南下するほど降雨量が少なく、乾燥します。南部のアンダルシア地方の夏の暑さは大変厳しいです。

カナリア諸島は亜熱帯性気候です。

このような自然条件の多様性は、特に農牧業の展開に深く関わり、各地に様々な生活様式・文化を生み出しました。

## 2) 国民・言語

総人口は約4400万人(2005年現在)。言語は、カスティリヤ語・バスク語・カタルーニャ語・ガリシア語が使用されています。一般にスペイン語と呼ばれているのはカスティリヤ語を指します。

憲法上の信仰の自由が保障されていますが、国民の約97%がローマ・カトリック教徒であり、宗教的儀式やお祭りなどが催されています。



## 3) 産業



GDP(国内総生産)は世界第8位であり、食品加工、化学品、自動車、観光産業が盛んです。

また、自動車メーカーの工場が多数あり、

自動車及び自動車部品が輸出入品の大きなウエイトを占めています。

農業比率は低下してきていますが、ぶどう・オリーブ・コルクの生産が盛んであり、漁業ではいわし・マグロなどの漁獲高が高いです。

電力は火力発電(58%)、水力発電(12%)、原子力発電(28%)でまかっていますが、近年原子力発電の依存の割合を軽減し、風力発電など代替エネルギーへの転換を図っています。

## 4) 日本との歴史

日本はスペインと、約450年の交流の歴史(1549年、ザビエルが鹿児島に上陸)があり、欧米諸国の中では最も古い友好関係をもつ国の一つです。

## 5) 生活習慣

食事の時間帯は日本よりやや遅めです。

昼食は一日のメインの食事で、午後2時ごろからたっぷり時間をかけて、会話を楽しみながらフルコースで食べます。これが、いわゆるシエスタ(昼寝・昼休み)です。実際に昼寝する習慣は見られなくなってきたようです。一度家に帰って食べたり、レストランで食べたりします。

夕食は、昼食に比べるとやや軽いものを午後9時ごろからとります。

また、朝食と昼食の間、そして、昼食と夕食の間におやつを食べたりもします。



## 6) カタルーニャ州 バルセロナ市



カタルーニャ州旗

カタルーニャはイベリア半島の東北部に位置する三角地帯で、バルセロナ、ジロナ、リエイダ、タラゴナの4県から成っています。

バルセロナはその州都として、現在人口約150万人(在留邦人2,000人)、国内第一の港湾を抱えるスペイン最大の商工業地帯となって発展を続けています。文化的にも前世紀末から今世紀初頭にかけて、画家のピカソ、ダリ、ミロを筆頭に、音楽家のカザルス、建築家ガウディ、ムンタネールなどスペインを代表する世界的な芸術家を多数輩出している文化都市でもあります。



### 6) 現地教育(カタリューニャ州)

教育行政に関しては、自治州に教育課程の基準・教育施設の基準など一定の権限が与えられているため、地域によって多少差があります。例えば、バルセロナはカタルーニャ州に属し、カタラン語を履修することとなっています。

小・中・高校は【私立】【公立】それから私立であるが州から補助を受ける【コンセルタード】という3種類の学校があります。例外もありません。

すが、基本的に公立の小中高校は学区制となっており、私立校に入るには生徒在籍の空き状況により、試験を受けなければならない時があります。

1990年より教育改革が始められ、同年「一般教育制度調整法」が成立し、2000年に完了。改革の柱は次の4つです。

#### 【幼児教育の重視】

就学前教育は0～2歳児と3～5歳の2段階区分。3～5歳は義務教育となっています。

#### 【義務教育期間の延長，4年制の中等義務教育の設置】

小学校6年間(義務)、中学校4年間(義務)、高等学校2年間、大学5年間の6・4・2・5制となっています。また、中学校と高等学校が併設されています。

#### 【外国語教育】

小学校3年生から英語またはフランス語教育が始まります。

#### 【1学級あたりの児童・生徒数の削減】

1学級あたり30人以内の児童生徒数でクラス編成されています。

#### 日 課 (現地公立中学校)

週5日制。授業は8:15から17:10まで1校時60分間(休憩5分含む)で行われますが、月・木曜日は1時間目がありません。(中3・中4は月曜のみ)。火・金曜日は午後の授業がなく下校するため教員はその時間、つまり、週6時間を職員会議に当てています。朝、帰りの学活の時間はなく、昼食は、各自持参した弁当を食べるか、校内の食堂または家に帰って食べたりしています。また、3時間目と4時間目の間の休憩は軽食をとってもよいことになっています。

	日 課	月	火	水	木	金
1	8:15～9:15	×				
2	9:15～10:15					
3	10:15～11:15					
4	11:40～12:40					
5	12:40～13:40					
6	13:40～14:40	昼	昼		昼	
7	15:15～16:15			職員会議		職員会議
8	16:15～17:10					



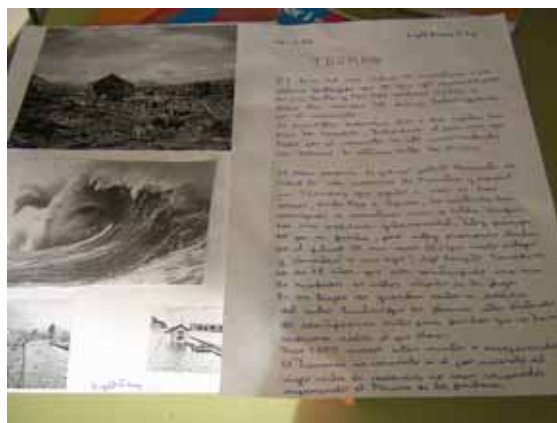
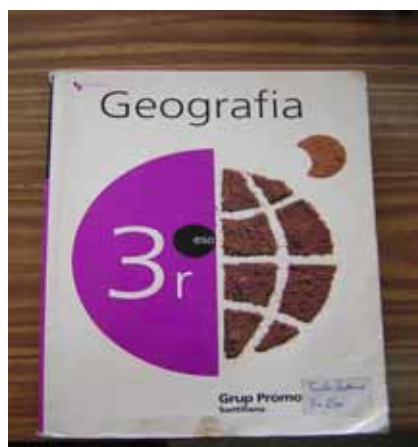
3学期制(3ヶ月12週を3サイクル)で、授業時間は1週間につき29時間(中3・4年は30時間)、年36週行っています。履修科目は、スペイン語・カタラン語(カタルーニャ語)・数学・英語またはフランス語(それぞれ週3時間)・宗教(週1時間)・美術・体育・社会(地理・歴史)・理科・技術・音楽(学年によって週時間数に差がある)の11科目あります。ただし、宗教については選択制となっていて、選択しない場合は、「礼儀」の授業を受け、道徳的な内容を学習します。

### 特別活動

委員会活動や宿泊を伴う学習活動は行っていません。ただ、学年末休業(夏)には、希望者を募って、宿泊体験学習を行うこともありますが、インストラクターが全て準備し指導にあたります。

### 教科書

県や市町村単位で教科書を指定しているわけではなく、学校単位で使用教科書を決めています。日本の小中学校においては無償ですが、スペインでは個人で書店に行き購入しています。



### 評価

10段階評価をしています。学年末には、スペイン語・カタラン(カタルーニャ)語・数学の進級試験があり、学習内容の5割程度の理解に満たない場合は落第となります。一度落第が確定すれば、スペイン国内どこにいても適応されます。国内の留年率は3%にもものぼるそうです。

### 施設・設備

普通教室の他、美術室・技術室・音楽室・図書室・体育館などがありますが、プールはありません。体育館は、バレーやバスケットができるほど広くなく、グランドも同様に、野球・サッカーができるほどの広さはありません。そのため、これらのスポーツは、地域のクラブチームに入って行っています。

また、校舎内には、補食のためのカフェテリアがあり、昼食のための食堂があります。

### 危機管理

校舎内には火災報知器が設置され、全ての教室に避難経路図が掲示されており、年一回火災に対する避難訓練が実施されています。

### 3 , バルセロナ日本人学校



#### 1) 概要

昭和56年、バルセロナの西に位置するエスブルガス市サン・イグナシオ校を借りて、児童生徒32名と教員3名で補習校がスタート。毎週土曜日10:00～13:00まで補習校で国語の学習をしていました。

昭和61年(1986年)4月1日に日本人学校が設立され、(設置者:バルセロナ日本文化財団)その後、めざましい日本企業の進出により生徒数が増え、平成4(1992)年、バルセロナの北に位置する現在のサン・クガット市に校舎を移転しました。

校舎のあるサン・クガット市は、カタルーニャ州の中心バルセロナ市の北部郊外に位置し、近年閑静な住宅地として発展しています。バルセロナ日本人学校は、そのサン・クガット市の丘陵地にあり、緑に囲まれ、アーモンドや桜の花を見ることが出来る恵まれた環境にあります。

校地内には、広いグラウンドに、プール、体育館、ランブラス(芝生のある丘)を有し、校舎内は冷暖房設備が完備された小中併置校です。

#### 学校教育目標

「自ら学び、心豊かで、たくましい子ども」

#### 自ら学ぶ(知育)

- ・ 自ら主体的に、人間らしく生きようとする
- ・ 社会の変化に対応し、主体的に学習する態度を育てる
- ・ 自らが学ぶ目標や方法などを身につけるとともに、それを実践する能力を育てる

#### 心豊か(徳育)

- ・ 真理を求める心を育てる
- ・ 自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心を育てる
- ・ 社会のために尽くす心を育てる

#### たくましく生きる(体育)

- ・ すこやかな心と身体を育てる
- ・ 自律心、自制心など強い精神を育てる
- ・ 自ら生きる目標を求め、その実現に努める態度を育てる

#### めざす子ども像(具体目標)

バ・・・バイタリティに富んだ、

たくましい子ども

ル・・・ルールをつくり、守れる子ども

セ・・・世界にはばたく、元気な子ども

ロ・・・論理的に考え、実践する子ども

ナ・・・仲良く、明るく、

思いやりのある子ども

年間授業日数194日(平成18年度)で、3学期制をとっています。

小1から中3まで8:30に登校し、16:30に下校します。毎日7時間授業を行いますので、年間授業時数は日本よりも少し多く行っています。

登校後の約10分間、月・火・金曜日には読書を、水曜日にはクロッキーを、木曜日には詩の創作を行っています。作品や読書カードはポートフォリオとして掲示しています。2校時と3校時の間の業間活動として、体力を向上させることをねらいに、全校でグラウンドの5分間走と軽い運動を行っています。

また、ネイティブによる英会話の授業を、

小1～小4までは週1時間，小5～中3までは週2時間行っています。一方，スペイン語は小1～中3まで週2時間行っています。



昼食は，お弁当を持ってきて，学級で食べたり，縦割り班で食べたりします。ただし，週1回給食があります。給食センターで作られ，学校や企業に配給されるスペイン・カタルーニャ料理を食べます。残飯は肥料にし，環境教育に役立っています。

国際理解教育の一環として，スペイン人講師に来ていただき，スペイン料理実習や踊りの学習もします。



また，小・中・補習校が合同で行う主な行事として，運動会，学芸会があります。

### 運動会

紅白に分かれ，徒競走・リレー・表現・団体種目，そして，応援合戦が繰り広げられます。「表現」は日本の踊りやスペインの踊りを取り入れるなどして創作した踊りなどを行います。



### 学芸会

小学部は表現劇・音楽発表，中学部は表現という演目から，劇やダンス，弁論的な内容の発表を行っています。また，全校合唱は，開校以来必ず曲目の中にスペイン・カタルーニャ民謡を取り上げ，原語で美しいメロディーを歌い続けています。

## 2) 実践

ここでは，現地校との交流・職業体験学習・総合的な学習の三つを紹介します。

### 現地校との交流会

現地校との交流は，小・中共に2校ずつ行い，来校と訪問を行っています。

ここでは，中学部の現地校来校の実践を紹介します。

バルセロナ日本人学校の中学部は，学校所在地のサン・クガット市にあるアンジェレッタ校と交流しています。アンジェレッタ校は公立の男女共学の中学校です。交流対象学年は1年生です。

交流会のねらいは次の3点です。

- ・ 交流活動を通して，相手校の生徒と進んで触れあおうとする態度を養う。
- ・ 日本文化を通して背局的に自分を表現する。
- ・ 相手にわかりやすく伝える手だて考え，積極的に自分を表現する。

活動内容は，文化交流（剣道・書道・茶道）と手巻き寿司作りです。



まず、歓迎会を行い、じゃんけん列車をしてアイスブレイキング。

次に、アンジェレッタ校の生徒に事前に希望をきいておいた、剣道・書道・茶道の3グループに分かれて文化交流活動を行いました。スペイン語での自己紹介後、剣道では、防具の説明・基礎うち練習を、書道は、書道の説明と簡単な漢字練習を、茶道は着物の着付けとお点前等を行いました。

予め調べておいたスペイン語で話しかけたり、あわててジェスチャーで伝えたりしながら交流。



その後、「手巻き寿司づくり」の交流活動を行いました。家庭科の授業がない現地校の生徒たちは、興味津々でのりを触ってみたり、キュウリを切ったりし、また、日本人学校の生徒も英語、スペイン語、ジェスチャーを使って、教えたり質問に答えたり、一緒に巻いたりしました。共通の体験を通して心の距離が縮まったようでした。



お別れ会では、名前当てクイズや感想発表をし、見送りをしました。

その後、グループ別で反省会を行い、中学部での全体反省会を行いました。

生徒の感想（抜粋）

今回の交流会の私の目標は「自分からスペイン人の輪に入り、積極的に話して、自分の名前を覚えてもらおう」でした。その目標を立てたのは、昨年の交流会の時に私は何もできなかったからです。だから今年こそ、と思ってたてました。交流1の書道では、とにかく自分から話しかけてみました。スペイン語がわからなかったら、英語で、ジェスチャーでいろいろな質問をしました。するとその子達が笑って答えてくれて、凄くうれしかったです。

#### 職業体験学習

18年度から「職業体験学習」に取り組むことになりました。

ねらいは、【働く喜びや苦勞を知り、将来に向けた職業観の形成をはかること】総合的な学習の一環として、企業への連絡を生徒自身が行うなど、課題を設定し、職業について調べたりして、課題追求への実践力をつける】ことです。

日本企業4社にご協力をいただき、生徒一人ひとりが個人テーマをもち、各企業に出かけました。訪問先企業の規模や沿革、仕事内容、そして当日のインタビューの内容等については、生徒が事前学習の時間に調査したり、考えたりしました。



体験内容については、工場内での機械操作・管理・製品製造過程体験・TV会議体験などを行いました。質問としては、輸出先や1つ製造するのに必要な時間、その仕事のやりがいと苦勞などを積極的に尋ねました。体験後は、保護者や企業の方々を招いて、発表しました。



### 生徒の感想

#### 生徒 A

私たちが体験したのは出庫前の箱詰めと数量の確認と中身チェックでした。実際には難しくない内容だったかもしれないけれど、すごく責任を感じ、1つのボタンを押すのにも緊張しました。箱詰めの方も高額商品なのでプレッシャーを少し感じました。でもとても貴重な体験ができ良かったです。私は、一秒でも仕事を速くしようとたくさんの工夫に驚きました。

#### 生徒 B

私たちは、会社について調べ学習をする時間をもちました。実際、会社に行ってみると、インターネットだけで知ることと実際に体験して知ることとは全く感じる感じが違いました。

この体験を通して、学んだことは、働くことの喜びと苦勞です。自分で今何をしなくてはいいかをしっかり考えながら仕事をしなければいけません。

けれど、完璧にできた時は、とてもうれしかったです。しかし、その裏では、苦勞もあります。何がどこにあるのかを覚えたり、仕事の順序を覚えたり、そんな苦勞を乗り越えながら働くことの喜びを知ることができました。私たちも将来、苦しいことから逃げず、働くことに誇りと喜びを感じて仕事をする立派な社会人になりたいと思います。

### 総合的な学習（中学部）

「スペイン（カタルーニャ）&日本を知ろう～国際理解～」をテーマに、1年次は「人物」、2年次は「文化・歴史」から課題に迫り、3年次は発展的にテーマを考えるよう進めました。



課題設定

調査内容決定

調査活動

体験的な調査活動

まとめ(分析・考察)

発表方法の工夫

発表

振り返り

学習の大まかな流れは左図の通りです。

ここでは、中学部2年の活動を紹介します。

第2学年は、「文化・歴史」に焦点をあて、スペインと日本について国際理解を深めました。

第2学年8名のグループ課題は、話し合いの末、「建築・祝日・民族舞踊におけるスペインと日本の違いを探る」となり、それぞれ個人の課題を設定し、学習を進めていきました。

民族舞踊におけるスペインと日本の違いを探る」となり、それぞれ個人の課題を設定し、学習を進めていきました。



段階	学習活動	身につけさせたい力	教科との関連
課題設定	オリエンテーション 課題決定 *「建築・祝日・民族舞踊におけるスペインと日本の違いを探る」	総合的な学習の意義 「生きる力」育成 <b>課題発見・課題設定能力</b>	道徳（国際）  国語（話し合い）
調査	計画書づくり 調査活動 （インターネット・本）  校外（体験）学習での調査項目決定・事前準備 ・ルート決定 ・訪問依頼状作成 ・体験・調査 ・礼状作成	<b>見通しをもつ力</b> 解決の方法 仮説と時間配分 <b>情報を集める力</b> <b>情報を活用する力</b> （文化の違いを知る） ・地域理解 ・健康・安全対策指導	理科（考える道筋）  各教科（課題解決の手だて）  美術（建築様式） 体育（踊りのルーツ） 社会（資料読み取り） 国語（依頼状・礼状作成）
発表	校外での調査活動 見学・観察 インタビュー ダンス体験	<b>体験的な情報収集力</b>	道徳（国際理解・公共機関利用） 国語（話す・聞く） 理科（観察） 体育（踊り）



調査	情報の分析と日西の文化比較考察  学年としての考察・見解をまとめる  *発表に向けて 資料作り ・PP使用 ・相互アドバイス	<b>収集した情報の分析・精選</b> <b>わかりやすくまとめる力</b>  <b>効果的に発表する力</b> PPで資料をつくる	数学・理科（アンケート分析） 国語（文書作成） 社会（資料分析）  情報教育（情報整理・分析・機器活用） 美術（映像構成）  国語（話す・聞く）（情報発信）
評価	課題と成果の確認 更なる課題発見について テーマ・計画について 調査方法・発表について 課題設定・追究に向けた取り組みについて	<b>自己を振り返る力</b> <b>これからの生活に生かす力</b>	各教科

建築追究班は、教会・民家・駅・城・特殊な建物の年代と構造など建築史を調べ、日本とスペインの比較考察をしました。

踊り追究班は、日本舞踊とスペインの踊りセビジャーナス・フラメンコについて歴史・楽器・踊りの構成などを調べ、比較考察、更に、セビジャーナスを実際に踊り、披露しました。

祝日追究班は、月別の祝日の催しと食べ物を調査し、比較しました。

生徒発表より

(祝日班)

祝祭日に食べる物として、お菓子がある。その日にちなんだものを食べてお祝いしようとする心は、日本人もスペイン人も同じだ。ただ、日本は手作りをするところもあるが、スペインでは買って食べることが多い。

また、その材料は主食に使われるのは米・小麦粉であり、土地に根ざしたものをフルに使っている。新年にはそれぞれの特産物であるそば・ぶどうを食べる。

これらのことから、日本もスペインも昔から自分の国の特産物を大切にし、上手に生活に取り入れてきたと思われる・・・省略

(建築班)

・・・中略・・・このことからわかるスペイン建築と日本建築の共通点は、建築物の多くは宗教に関係しているということ。外国の様式を取り入れているということ。時が進むにつれ、複数の様式を複合させた様式が生まれたということが挙げられる。

相違点として、スペインは派手な装飾を好み、日本は質素な建築が多いこと。スペインは石を多く使用し、積み上げて建設していくのに対し、日本は、木材を多く使用し、組み立てて建設していくことが挙げられる。どちらもその地域にあった様式を生み出している・・・省略



#### 4, 終わりに

校外では、3年間「スペイン人による日本語弁論大会」の審査をさせていただき、いろいろな観点から日本を知るきっかけとなりました。また、カタルーニャ地方の伝統文化「人間の塔」のチームに加えて頂いたり、地域行事である花祭り(フラワーロードづくり)を見たりする中で、老若男女、世代を超えて地域ぐるみで一つのことを行い、子どもたちを育てている姿がとても印象に残りました。



日本全国から派遣されてきた同僚、親切な現地採用の職員、そして、明るく元気な子どもたち、いつも暖かい目で見守りご協力頂いた保護者の皆様、関係機関の方々に深く感謝し、この三年間で見聞したこと、学んだことなどを還元していきたいと思います。



バルセロナ日本人学校

COLEGIO JAPONES DE BARCELONA

<http://www.colegiojaponesbcn.net/>